

平成 29 年度事業報告

【公益的事業】

1. 誘客促進事業

(1) コンベンション開催支援事業

- ① 学会等各種大会の開催は大きな経済普及効果が期待できることから、県による開催助成金制度及び協会独自助成を実施。また、学会等主催者に対しアフターコンベンションとして八戸地域視察等コンテンツの提案をした。
 - (ア) 県助成（県外宿泊のべ 100 泊以上） 4 件（辞退 4 件）
 - (イ) 協会独自助成（50 泊～99 泊） 1 件（辞退 3 件）
- ② 国際 M I C E エキスポ（IME）2018 への出展（県観光連盟事業）
 - (ア) 開催期日 平成 29 年 2 月 28 日（水）
 - (イ) 開催場所 京王プラザホテル（東京）
 - (ウ) 青森県観光連盟として青森、弘前各コンベンション協会と共同出展。
参加した学・大会主催者に対し、県内及び八戸地域での大会及び企業研修開催について働きかけた。
- ③ 東北地区コンベンション推進協議会への参画
東北・新潟地区のコンベンション協会、ビューロー17 団体による協議会
 - (ア) 総会及び研修会の実施
東北地区での持ち回り学・大会開催情報交換、ユニークベニュー等の検討。
 - (イ) 東北地区 M I C E 誘致懇談会への出展
 - 開催期日 平成 29 年 12 月 11 日（月）
 - 開催場所 都市センターホテル（東京）
- ④ 各商談会等で面談した主催者団体へは後日、個別に青森県観光連盟担当者と訪問し開催についての可能性を探る等具体的な商談を行った。

(2) 広域観光推進事業

① はちのへエリア観光推進プロジェクト事業

観光コーディネーターを配置し、はちのへエリア（八戸広域 8 市町村）の行政、観光・民間団体等と連携し、旅行商品等の企画・造成・販路開拓の支援を行った。

特に 29 年度は前年度に策定した「はちのへエリア広域観光戦略」に基づき、広域観光をさらに推進し将来目標像実現のため推進力を持った体制の強化策について、広域の関係者と検討しながら「(仮称)はちのへエリア地域連携DMO」設立に向けた準備を進めた。

② はちのへエリア旅行商品企画造成流通促進支援事業

旅行者のニーズや評価の把握等と、商品化を目指す体験メニューの内容検証及び受入態勢の強化等を目的に、ツアーやイベント等の実施及び支援を行った。

(1) ツアー、体験会、実証実験等の実施状況

- ・シャトルバス運行支援 2 日
- ・モニターツアー実施 2 日
- ・まちあるきイベント 3 日
- ・朝ヨガタクシープランの実証実験 1 日
- ・「八戸あさぐる」新プランの実証実験 1 か月間

(2)「種差朝ヨガ」の開催支援

・5月末～9月末までの毎週土曜日 全19日 参加人数合計1,079名

(3)八戸さんぽマイスター(ガイド付きまちあるき)全5コースを旅行商品化

・9/1販売 中心街2コース、陸奥湊2コース、館鼻朝市1コース 参加人数合計81名

③ はちのへエリア観光プロモーション強化事業(むつ小川原地域・産業振興財団助成金事業)

(1) YouTube 動画やブログ等SNSを活用した海外向けの情報発信

・主に英語圏向けの YouTube 動画を2本制作し配信 → 両方で視聴回数約80万回

・主に台湾・香港向けの Facebook でのライブ配信及び写真・動画付きの記事配信

→ ライブ配信2回、記事配信7回で、リーチ数約130万回、いいね約1.8万回

(2) 外国人旅行客の受け入れ体制の強化、機運醸成、情報発信等

・台湾、タイの旅行 AGT とテレビ及びネットメディアによる FAM ツアー受入 → 2日×2回

・外国人向けWEBサイト用の取材受入対応 → 英語版2社計3回6日間

・「東北インバウンドサミット in 八戸」の開催支援(7/7) → 約160名参加

・「まちあるき等ガイド向けインバウンド対応力向上セミナー」開催支援(10/17)

(3) 首都圏での大型イベントへの出展によるPR

・「ふるさと祭り東京 2018～日本のまつり・故郷の味～」(1/12～21)へ出展参加

(4) 宮城県の情報紙への市町村観光情報等の掲載

・4/27～3/15まで、全18回掲載(うち12回は無料掲載)

(5) 「料理通信」公式サイトでの Fooding Tourism 「食」関連情報発信事業への参画

・「フードツーリズムマイスター講座」を受講し、2名がマイスターに認定

・食に特化したインバウンド旅行商品「南部町の暮らしぶり体験ツアー」を造成

(体験企画:NPO 法人青森なんぶの達人村)1/1～3/31までに3件10名が参加

④ はちのへエリアマーケティング調査事業(八戸市負担金事業)

地域が観光で稼げるようになるために必要なマーケティングデータの継続的な収集・分析と、そのデータに基づいた明確なコンセプトの策定及び成果指標・目標値を設定するために、当エリアを訪れた旅行者及び地域住民を対象としたマーケティング調査を実施した。

また、調査結果を当エリア8市町村の官民により構成するワーキング会議で集計・分析して、成果指標に対する今後目指すべき目標値を設定した。

(1) 延べ宿泊者数把握調査

・はちのへエリアの宿泊施設に泊まった旅行者等の実数を把握

従来公表されていた「八戸ホテル協議会による集計数値」に、協議会非加盟のホテルから宿泊実績を聞き取り、それらを集計し宿泊実態を分析

◆「延べ宿泊者数把握調査」結果

○八戸市 延べ宿泊客数:単位(人泊)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
公表値	512,130	498,719	505,273	464,430	485,460
調査結果	720,349	701,869	718,890	747,471	771,117

公表値:ホテル協議会加盟ホテルの宿泊実績

調査結果:ホテル協議会加盟ホテルの宿泊実績+非加盟7ホテルの宿泊実績

○八戸市 外国人延べ宿泊客数:単位(人泊)^{※1}

2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
3,750	3,028	4,751	7,755	12,699	19,185

○八戸市 外国人延べ宿泊客数(上位5か国):単位(人泊)^{※1}

No.	国名	人泊
1	台湾	5,172
2	アメリカ	2,665
3	中国	2,308
4	香港	1,407
5	韓国	951

※7 外国人延べ宿泊者数は、
八戸市内宿泊施設回答分
に基づく

(2) はちのへエリア観光アンケート調査

・はちのへエリアを観光やビジネスで訪れた旅行者を対象とした「来訪者調査」と、当エリアに住んでいる住民を対象とした「地域住民調査」を実施

〈主な調査項目〉

- ① 来訪者調査 → 旅行消費額、来訪者満足度、リピーター率等を調査
- ② 地域住民調査 → 地域の自慢できる魅力を何個言えるかを調査

〈調査結果概要〉

・調査期間:9月13日～3月31日

・調査方法:

- (a) インターネットを活用したアンケート調査
- (b) はがきを活用したアンケート調査
- (c) 調査員による手配りアンケート調査(11月17日～18日、11月24日～25日実施)

・回答件数:799票

・調査地点と調査方法

(a) 調査地点 65カ所

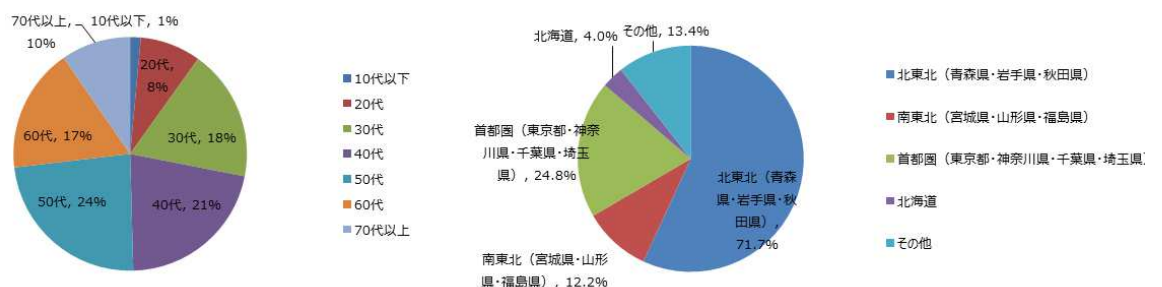
- ・宿泊施設 27カ所
- ・道の駅、観光施設 14カ所
- ・交通拠点、機関 10カ所
- ・観光案内施設 3カ所
- ・日帰り温浴施設等 3カ所
- ・行政から直接送付 8カ所

(b) 調査方法

- ・インターネット調査告知 65カ所
- ・はがき調査用調査票設置 65カ所
- ・調査員による対面聞き取り調査 9カ所(4日間)

◆「来訪者調査」結果

○回答者の属性



○観光アンケート調査結果一覧

◆平均旅行消費額(1人あたり) ※1		宿泊客	日帰り客
		20,810円	3,865円
<内訳>	お土産費	4,460円	1,571円
	飲食費	5,947円	1,472円
	交通費	2,482円	723円
	宿泊費	7,535円	0円
	施設入場料や体験料、その他	386円	99円
◆来訪者満足度(大変満足率) ※2		36.8%	28.2%
参考:満足率(大変満足率+満足率)		83.7%	80.2%
◆リピーター率 ※3		80.3%	90.5%
◆延べ宿泊客数(人泊) ※4		764,113	/
・平均宿泊数(泊) ※5		1.90泊	
・有料宿泊者1人1泊あたり宿泊費 ※6		4,893円	
◆地域住民のはちのへエリアの自慢できる魅力		5.85個	

※1 平均値に置換して計算(例:「1,001-2,000円」と回答した場合
平均値{(1,001+2,000)÷2=1,500(小数点以下切捨)}

※2 来訪者満足度は、大変満足のサンプル割合

※3 リピーター率は、来訪経験2回目以上のサンプル割合

※4 八戸観光コンベンション協会による集計(2016年度)

※5 宿泊者の平均値。宿泊費ゼロも含む。

※6 宿泊費ゼロを除く、有料宿泊者のみによる平均値

[自由回答 / 抜粋]

- 食事がたいへん美味しかったことと種差海岸などの景色に感動したこと。
- 人の暖かさ。 ○食べ物がおいしかったです。 ○またゆっくり訪れたいです。
- 朝市は人の活気で溢れ、朝早くからでもすっきり目が覚めました。
- どなたにお会いしても、人柄がよく大変親切に接して頂きました。
- 素朴な風景を保ちつつ、街はとても賑やかで楽しそうでした。とても素敵でした。
- △八戸に活気ついて欲しいですが、変わらない八戸でもあって欲しいです。
- ▲バス等でスイカ等が使えない。 ▲電車の便が悪いこと。
- ▲八戸駅と中心街が離れている。 ▲「八戸」「本八戸」の区別がつきづらい。
- ▲電車、バスが少ないので、回りたい所を絞らないと行けなくてもったいない。

◆「地域住民調査」結果

Q:地域住民のはちのへエリアの自慢できる魅力把握

○各年代の自慢できる魅力個数

年代	単位:人	平均個数	個数の最小値	個数の最大値
10歳以下	6	5.83	1	10
10代	21	6.95	3	20
20代	21	8.10	2	20
30代	66	8.50	1	21
40代	75	7.63	1	21
50代	65	6.68	1	26
60代	153	5.25	1	20
70代	103	4.25	1	21
80代	43	2.56	1	10
90代	4	2.00	1	4
未回答	5	2.00	1	6
総計	562	5.85		

●各年代の各カテゴリーごとの回答者率(複数回答) 各カテゴリー回答者+各年代回答者

	単位:人	食	自然	歴史	施設	暮らしぶり	温泉	景観	人の魅力	スポーツ	その他
10歳以下	6	83%	17%	0%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	17%
10代	21	76%	52%	62%	48%	62%	14%	0%	24%	38%	19%
20代	21	81%	76%	48%	52%	71%	0%	19%	10%	10%	10%
30代	66	89%	61%	61%	47%	45%	18%	14%	11%	12%	14%
40代	75	91%	55%	43%	29%	55%	8%	11%	12%	7%	9%
50代	65	88%	51%	49%	40%	32%	12%	12%	3%	5%	8%
60代	153	72%	45%	47%	39%	30%	8%	7%	4%	3%	5%
70代	103	65%	38%	43%	36%	26%	10%	2%	5%	8%	5%
80代	43	51%	28%	14%	30%	16%	35%	7%	7%	2%	7%
90代	4	25%	25%	0%	25%	25%	50%	0%	0%	0%	0%
未回答	5	40%	60%	20%	20%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
トータル	562	75%	47%	44%	38%	36%	12%	8%	7%	7%	8%

(3) 調査結果を基に設定した成果指標に対する目標値

- ・調査結果を当エリア8市町村の官民により構成するワーキング会議で集計・分析して、成果指標に対する今後目指すべき目標値を設定した。

※目標値は毎年マーケティング調査で実績を確認し、必要に応じて変更する。

成果指標	目標値	(参考)2018年現状数値
延べ宿泊者数	2019~22年度にかけて前年比3%増を継続	764,113人泊
平均旅行消費額	2022年度に宿泊客24,000円、日帰り客4,100円を達成	宿泊客20,810円 日帰り客3,865円
来訪者満足度	2019~22年度にかけて大変満足率の前年比1%増を継続	宿泊客36.8% 日帰り客28.2%
リピーター率	2019~22年度にかけて現状値を維持	宿泊客80.3% 日帰り客90.5%
はちのへエリアの自慢できる魅力を何個言えるか	2019~22年度にかけて対前年1件増	5.85個

⑤三八地域がっちり稼ぐ広域観光業務(青森県委託事業)

(a) 地域「間」連携型モデルルートの検証

- ・三八地域への更なる誘客のため、三八地域周辺のビッグコンテンツと、三八地域のコンテンツを、テーマ性を持って回るモデルルートを検証。

ア) 上北エリアと三八エリアをめぐるモデルルートの調査、作成、モニターツアーを実施

＜上北と三八エリアをめぐるモデルルート「上北・八戸♡Local旅」＞

地元の人とのふれあいと体験が盛りだくさん！ 青森三大肉料理・海鮮イタリアンランチなどによる、贅沢な食事を堪能できる旅(1泊2日)

◆ 仙台圏在住 20～40代女性限定 6名参加

イ) 地域間連携型モデルルートの周知・PR用ツールを作成

28年度から実施してきた三八地域周辺のビッグコンテンツと三八地域のコンテンツを、テーマ性をもったモデルルートと設定して、参加者からの評価や検証によりブラッシュアップし、観光関係者が旅行会社等に提案(PR)できるツールを制作した。

(b) 三八地域観光の滞在型化推進

- ・観光客の滞在時間増加のため、宿泊の動機付けを狙いとした観光コンテンツの滞在型化を図ることを目的に事業に取り組んだ。

ア) 観光事業者、宿泊事業者、交通事業者、市町村等が集まり、専門家のアドバイスを受けながら、顧客ニーズを踏まえた事業者間の戦略的な連携方法を検討した。

イ) 滞在型化推進の為の実証実験を実施

○種差朝ヨガタクシー

- ・人気の高い種差朝ヨガを活用して宿泊客の滞在時間を増加させる為にタクシーの送迎を組み合わせせたプランを検証 10名参加

○八戸あさぐる銭湯無しプラン

- ・八戸あさぐる利用者増加の方策を検討会での仮説に則り2コース運行して検証。

八戸えんぶり期間を含む2月の23日間実証実験を行った。7台運行、13名利用

⑥ 三八地域まちあるき・地域づくり団体交流ステップアップ業務(青森県委託業務)

県内他地域のまちあるき団体との現地交流や意見交換会を行うとともに、はちのへエリアのまちあるき団体と地域住民をつなぎ、まちあるきを活用した地域づくりにつなげていけるような人材を育成するための講座を開催して、まちあるき団体の広域的な連携やステップアップを図った。

(a) 県内他地域のまちあるき団体との連携

- ・広域的なまちあるきの展開に向けて、ガイド同士の連携を通じた技量向上を図るため、県内他地域のまちあるきを実体験する研修及び研修先まちあるき団体等との意見交換を実施。

○中南津軽まちあるき研修 10/1 参加24名

- ・大鰐町及び田舎館のまちあるき体験と、その後ガイド組織等との意見交換会を実施

(b) まちあるきガイド向け講座の開催

- ・豊富な経験を持つガイドの実体験をもとにしたホスピタリティや安全面の確保・広域的なまちあるき等をテーマにした講座を2回開催した。

(c) 地域づくりコーディネーター養成講座の開催

・まちあるき団体をまとめ、まちあるきと地域の人をつないで地域づくりに活かしていけるような人材を育成するため、住民や地域を巻き込む方法等をテーマにした実践的な講座を3回開催した。

⑦ 三八地域一体型広域観光情報発信事業業務(青森県委託業務)

これまで八戸広域観光推進協議会と青森県三八地域県民局が中心となって進めてきた広域的な取組と着地型観光の取組を、国内外へ三八地域として一体的に発信した。

(a) テーマ別三八地域広域観光パンフレットの作成

- ・市町村毎ではなくテーマ別の切り口で、当エリアの強みである「食」を主テーマに設定し、英語版パンフレットを制作した。

(b) パンフレットと連携したWEB情報発信

- ・制作したパンフレット(英語版・日本語版)をWEB上でも閲覧でき、ダウンロードもできるように、八戸広域観光推進協議会の公式サイト上に掲載した。

(c) 注目度の高いポスターの制作と掲示

- ・朝市や縄文文化等をテーマに設定して、あえて函館市と対比をするなど、話題性を高めることで注目を集められる、インバウンド対策を考慮して日本語と英語を使用したインパクトの強いデザインのポスターを制作した。
- ・ポスターは、函館市電 28 車両の中吊り広告に約 3 か月間掲出した他、八戸～函館間の主要駅及び観光関連施設やイベント等の際に掲示してPR効果を高めた。

⑧ その他

青森県内の「まちあるき」に取り組む団体・ガイド等のスキルアップと連携を目的とした、「青森県まちあるきソウルメイトミーティング」を開催した。

- ・11/11、県内各地からガイドやまちあるき運営団体等、41名が参加し交流を深めた。

(3) 観光諸行事の企画・実施

当市に伝わる伝統的な祭り等の魅力を市民及び観光客に紹介するとともに、将来に受け継いで行くために、国の重要無形民俗文化財である八戸えんぶり、八戸三社大祭の主催団体の運営を行ったほか、市内各地で行われる祭りや行事の活動を支援した。

① 根城さくら祭り

- | | |
|----------|--|
| (ア) 開催期日 | 平成 29 年 5 月 1 日 (日) |
| (イ) 開催場所 | 八戸市史跡根城の広場 |
| (ウ) 入込数 | 1,850 人 |
| (エ) 内容 | 史跡内にある根城ゆかりの地・身延のしだれ桜の観桜、野点、花苗の無料配布等を実施。(博物館、本丸主殿内の入場無料) |

② 八戸三社大祭

- | | |
|----------|--|
| (ア) 主催 | 八戸三社大祭運営委員会 |
| (イ) 開催期間 | 平成 29 年 7 月 31 日 (月) ～8 月 4 日 (金)
ユネスコ登録記念祭 8 月 5 日 (土) |
| (ウ) 入込数 | 1,492,800 人 |
| (エ) 内容 | |

- ユネスコ無形文化遺産登録後初の祭り開催により、開催期間を一日延長。
- 3年ぶりに行列先導で馬を使用(運営委員会長、市長、商議所会頭)
- 八戸三社大祭来庁者用駐車場案内チラシの作成、新聞折込(市委託)

三社大祭期間中、市庁前及び内丸駐車場が使用できなくなることから、「おんカード」使用による中心街一般駐車場利用の呼びかけを行った。

(オ) 運行部会・審査部会による事前協議

(カ) フォトコンテストの実施

応募点数 89 点：入賞作品をはちのへ総合観光プラザで展示

③ 根城南部杯グラウンドゴルフ大会（指定管理自主事業）

(ア) 開催期日 平成 29 年 9 月 11 日(月)

(イ) 内容 北奥羽地方のグラウンドゴルフ愛好者約 450 名による大会を実施することにより、史跡根城への入場を促し施設の PR を行った。

④ 史跡根城まつり

(ア) 主催 史跡根城まつり運営委員会

(イ) 開催期日 平成 29 年 10 月 7 日（土）

(ウ) 入込数 1,680 人

(エ) 博物館・本丸内主殿入場無料

⑤ 八戸えんぶり

(ア) 主催 八戸地方えんぶり保存振興会

(イ) 開催期間 平成 30 年 2 月 17 日（土）～20 日（火）

(ウ) 開催場所 長者山新羅神社、中心街、市庁前市民広場、更上閣

(エ) 入込数 293,000 人（昨 241,000）

(オ) フォトコンテストの実施

応募点数 374 点（昨 318）：入賞作品をはちのへ総合観光プラザで展示

⑥ 八戸花火大会

(ア) 主催 八戸花火大会大会委員会

(イ) 開催期日 平成 29 年 8 月 20 日（日）

(ウ) 開催場所 館鼻漁港

(エ) 入込数 88,000 人（昨：40,000. 悪天）

⑦ 市内各地区で行われている伝統ある祭りや行事の活動を支援した。

催事名称	開催期日	主催
蕪嶋まつり	4 月 15 日（土）・16 日（日）	蕪嶋まつり実行委員会
種差海岸観光まつり	7 月 9 日（日）	種差海岸観光まつり実行委員会
八戸七夕まつり	7 月 14 日（金）～17 日（月）	八戸商店街連盟七夕まつり実行委員会
八戸小唄流し踊り	7 月 14 日（金）	東奥日報社
第 56 回八戸納涼盆踊り大会	8/10.11（悪天中止）	デーリー東北新聞社

(4) 旅行商品造成事業

① 旅行エージェントが造成する三社大祭・えんぶりに係るツアー等へのパンフレット作成支援や、旅行商品造成にあたり、三社大祭、えんぶりに関する商品の提案を行った。

② 商談会等への参加各地で行われた商談会等に参加し、八戸市の情報提供及び当協会旅行商品の売り込みを行った。

(ア) 青森県・津軽海峡周遊観光セミナー・商談会

➤ 期日 平成 29 年 10 月 30 日(月)

- 場所 東京都内（ホテルメトロポリタン（池袋））
- (イ) 航空キャリア提携旅行エージェント誘客促進事業商談会
- 期日 平成 30 年 1 月 12 日（金）
- 場所 青森市（ホテル青森）
- (ウ) 九州・沖縄地区旅行エージェントとの商談会 in あおもり
- 期日 平成 30 年 2 月 8 日（木）
- 場所 八戸市（グランドホテル）

(5) 二大祭事 PR 事業

- ① 三社大祭・えんぶりの開催概要を記載した媒体を作成し、県内外で行われる各種イベントで広く配布した。
- ② 八戸三社大祭パンフレットの増頁
既存のパンフレット内容に” 神社行列” ” 山車制作” 等の内容を盛り込み、増頁による内容の充実を図った。

(6) 郷土芸能派遣事業

観光関連団体と連携し、各種物産展やイベント等において八戸地域の郷土芸能の派遣を行い、行事の紹介・観光 PR を図った。

開催期日	催事名	開催場所	派遣団体
5/27（土）・28（日）	東北展	スズラン百貨店（高崎）	仲町えんぶり組
12/9（土）・10（日）	第2回青森県の物産展	東急百貨店吉祥寺店	大久保えんぶり組
3/10（土）・11（日）	第8回青森物産展	福田屋インターパーク店	福田上えんぶり組

(7) 道南観光交流事業

- ① 北海道向け雑誌、新聞等への観光広告掲載
さっぽろ雪まつりでのえんぶり披露に合わせ、北海道全域版、函館近郊版で八戸えんぶりの広告を掲載した。

(8) 大型客船誘致事業

- ① 「ばしふいっくびいなす」寄港（乗船客 447 名）
 - (ア) 期日 平成 29 年 5 月 21 日（日）
 - (イ) 場所 八太郎埠頭 P 岸壁
 - (ウ) 内容 入出港セレモニー、土産物販売、せんべい汁お振舞等
 - (エ) 「観光案内」デスクの設置
5/19～21 の期間、客船航行中の船内で「観光案内デスク」を設置。
八戸市内を中心とした観光案内を行った。
- ② 「飛鳥Ⅱ」寄港（乗船客 254 名）
 - (ア) 期日 平成 29 年 5 月 26 日（木）
 - (イ) 場所 八太郎埠頭 P 岸壁
 - (ウ) 内容 入出港セレモニー、土産物販売、せんべい汁お振舞等
 - (エ) 船内「観光案内」デスクの設置
5/24～26 の期間、客船航行中の船内で「観光案内デスク」を設置。
八戸市内を中心とした観光案内を行った。

(9) TV番組等取材対応事業

テレビ番組や映画、雑誌等の取材やロケの誘致・対応により「八戸」の認知度を高め、当市に観光客を誘致した。

(10) 観光サービス事業

ホームページ、SNS の運営により、八戸地域の観光、行催事、観光商品の提案を行った。

(11) 三社大祭全国CATV衛星放送事業

八戸三社大祭開催の様相を全国 CATV ネットワークで紹介することにより、まつりの PR を図る。

(12) 事業者・関係団体との連絡調整

当市の観光振興を効果的に進めるため、市内各事業者及び関係団体、行政機関等との連絡調整を図った。

① はちのへ観光創造委員会

(ア) 「Train suite 四季島」立ち寄りによるおもてなし

- 期日 8月17日(木)
- 場所 八戸駅、マリエント付近

(イ) 「蕪島・久慈復興応援号」運行に伴うおもてなし

- 期日 8月31日(木)
- 場所 八戸駅

(ウ) 「TOHOKU EMOTION」青い森鉄道運行に伴うおもてなし

- 期日 9月7日(木)
- 場所 青い森鉄道陸奥市川駅付近

(エ) 東北新幹線八戸駅開業15周年記念イベント

- 期日 平成29年12月2日(土)
- 場所 JR八戸駅

(オ) 八戸線キハ40系最終運行お見送り

- 期日 平成30年3月16日(金)
- 場所 JR八戸駅

② 東日本高速道路㈱「ハイウェイ東北2017」への参画

- (ア) 期間 9月16日(土)・17日(日)
- (イ) 場所 仙台市・勾当台公園
- (ウ) 内容 東北自動車道沿線市町村による観光PR
(二日目は台風の影響により中止)

③ 青森県観光連盟事業への参画

国際観光、教育旅行誘致、コンベンション誘致等の各連会議への出席

2. 受入態勢促進事業

(1) 公共施設の管理運営

① はちのへ総合観光プラザの管理運営(市委託)〈旅行業営業所登録〉

(ア) 八戸駅利用の観光客に対する八戸地域並びに青森県全体の観光案内情報の提供、外国人来訪者への案内業務を行った。

(イ) 問合せ件数

項目	29年度	28年度
観光案内	8,754	9,568
宿泊案内	504	594
飲食店・土産物案内	1,832	2,510
交通案内	4,290	5,305
観光タクシー	78	48
外国人案内	1,556	1,005
計	17,014	19,030

(ウ) 交流広場の活用

- ミニ山車の設置
- 三社大祭・えんぶりフォトコンテスト入賞作品の展示
- 山車ぬり絵コーナー等の設置

② 八戸ポータルミュージアム「はっち」インフォメーション業務(市委託)〈旅行業営業所登録〉

中心市街地の代表的な施設「はっち」館内の施設・行事案内、貸館受付、観光情報の提供を行った。

③ 八戸市史跡根城の広場の管理運営(指定管理者)

(ア) 入場料受納、施設・植栽管理、警備委託業務

(イ) 自主事業の運営

- 根城おもしろ講座の実施
 - ① 歴史講演会 3回
 - ② 手作り体験 7回
- 「鎧を着よう」企画 平成29年4月29日(土)～5月7日(日)
- えんぶり撮影会 平成30年2月18日(日)、19日(月)

④ 博物館案内等業務(市委託)

博物館受付で入館料受納、館内業務補助を行った。

(2) 「八戸ふるさと検定」運営事業

① 「学生と学ぶ ふるさと検定オープンキャンパス」の実施

「八戸ふるさと検定」取得支援は平成26年度から実施している八戸学院大学及び短期大学との連携事業の一つ。

昨年に引き続き、オープンキャンパスとして学生はもちろん、広く市民及び八戸市をホームタウンとして活躍するスポーツチームの選手・スタッフにも参加いただき、想定問題を解きながら交流し、「ふるさと検定」取得者の増加に繋げるものとして実施した。

(ア) 期日 6月9日(金)18:00～19:30

(イ) 場所 ニューポート(十三日町)

(ウ) 参加者 43名

② 検定試験の実施

(ア) 初級試験(第9回)

- 7月2日(日)於:八食センター
受験者55名/合格者37名

(イ) 中級試験(第8回)

- 9月3日(日)於:八戸市スポーツ研修センター
受験者27名/合格者14名

(ウ) 上級試験(第7回)

- 11月5日(日)於:八戸市スポーツ研修センター
受験者数19名/合格者なし

(3) 観光バス駐車場管理運営

種差芝生地隣接の民有地を借上げ、駐車場として種差海岸三陸復興国立公園利用者の利便に供した。(一般車両・観光バス)

3. 郷土文化保存育成事業

八戸地域に古くから受け継がれてきた祭りや伝統芸能、伝説などの郷土文化は、当市の観光資源としても大変貴重なものであることから、それら郷土文化の保存育成に努めた。

(1) 民俗行事行列支援事業

三社大祭斎主神社行列に対して、行列支援及び用具等の補修の支援を行った。

(2) えんぶり伝承師等の認定

八戸地方えんぶり保存振興会との連携により、えんぶりの摺り、舞、拍子等の伝承に努めている継承者に伝承師として認定した。

【伝承師】 春日重蔵(荒谷)、石橋勝男(山道)、日登鉄也(日計)
柳沢義美(鳥屋部)、釜石幸史朗(重地)、松橋幸男(横町)

(3) 正調八戸小唄保存事業

「正調八戸小唄」講習会を行い、郷土の文化伝承を行った。

- ① 9月7・21・28日 受講者23名
- ② 10月5・17・24日 受講者19名
- ③ 11月2・16・30日 受講者18名

※10月7日(土)、史跡根城まつりで受講者による踊りを披露(雨天、テント内)。

(4) 義経北行伝説説明板の維持管理並びに周辺整備

八戸市内16カ所にある源義経伝説にゆかりある案内板の補修等維持管理を行った。

4. 蕪嶋神社再建支援寄附金受付事業

平成27年11月に焼失した蕪嶋神社の再建に向け、当協会としても寄附金を受け入れ、神社関係者で構成される神社再建実行委員会に対し支援を行うことで観光地の早期再建を図り、誘客促進を図るもの。

- (1) 口座開設金融機関 青い森信用金庫本店、青森銀行八戸支店、みちのく銀行八戸支店
- (2) HPによる寄附受付

- (3) 平成 29 年度寄附金額 25,246,257 円 (27 年度からの累計 79,134,602 円)
※本事業の実施期間は蕪嶋神社再建実行委員会が掲げる 3 年間を鑑み、開始の日から平成 31 年 3 月までとする。

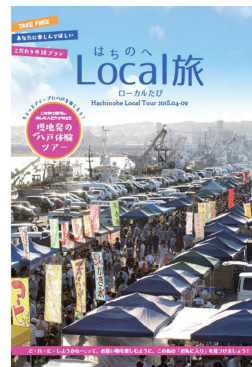
【収益事業】

1. 旅行業の推進

各旅行会社との連携強化、八戸地域の着地型旅行商品の企画・発売を積極的に推進する。

(1) 旅行商品造成業務

- ① 「Local 旅」の企画・運営 全 25 プラン 280 名利用
- ② Web サイト等の管理
- ③ 「Local 旅」パンフレット作製
(ア) 2017 年 10 月～2018 年 3 月版：4000 部
(イ) 2018 年 4 月～9 月版：4000 部
- ④ 着地型旅行商品の広告展開
Web、雑誌、新聞等への「Local 旅」の情報掲載



(2) 「八戸あさぐる」の実施

- ① 平成 22 年 9 月から当協会主催として実施。
- ② 利用件数： 37 人 (昨年度 71 人)

(3) 八戸まちぐる定額タクシー「八戸まちタク」

八戸市の観光を周遊するための二次交通機能強化のために、料金体系・時間が明確な定額観光タクシーを販売した。

〈販売実績： 33 セット (昨：33 セット)〉

- | | |
|-----------------|-----------------|
| A コース (7500 円) | B コース (7500 円) |
| C コース (10500 円) | D コース (14500 円) |

(4) 他団体企画による当協会実施ツアー

- ① ぐれっとバスツアー (十和田) 78 名
- ② 八戸広域観光推進協議会
(ア) 上北八戸 Local 旅モニターツアー 6 名
(イ) 八戸さんぽマイスターと行く横丁特別編 18 名
- ③ 大手旅行 AGT 商品造成への当地商品組込
(ア) JR びゅう商品 9 商品 33 名
(イ) JALPAK 0 名

2. 八戸三社大祭観覧席設置運営事業

- (1) 合同運行経路上にパイプ椅子を設置、販売。(2,200 円/席) 約 1,500 席

(2) 設置場所

- ① 8 月 1 日 (760 席)：はっち、三春屋、CINO 前、廿三日町 (マルイチ側)
- ② 8 月 2 日 (390 席)：ほまれ駐車所前、秋田銀行、みちのく銀行、はっち
- ③ 8 月 3 日 (290 席)：ほまれ駐車所前、秋田銀行、みちのく銀行

3. 八戸三社大祭臨時駐車場運営事業

- (1) 長根運動公園及び旧柏崎小跡地を借り上げ、三社大祭観覧者の利便に供した。
- (2) 乗用車 700 円、大型バス 2,200 円

4. えんぶり公演の実施 2月17日・18日(八戸市公会堂)

5. バス乗車券販売委託事業

はちのへ総合観光プラザ及び「はっち」インフォメーション内において、バス乗車券の販売業務を行うとともに公共交通機関の利用を呼び掛け、バス利用者への利便に供した。

6. 物品販売事業

- (1) 「八戸ふるさと検定」テキスト販売
- (2) 写真集『HACHINOHE CITY』の販売
- (3) 観光関連 CD、DVD、写真等物品の販売
- (4) はちのへ共通商品券及び各種チケットの販売

【その他の事業】

1. 専門部会の運営

当協会が事業について、専門部会による効果的かつ具体的な解決方法を検討・実施し、当協会の円滑な事業運営を図った。[総務部会 事業検討部会 誘客部会]

2. 会員優待事業の実施及び会員増強

会員に対する優待事業として下記の事業を実施し、当協会の会員増加を図る。

- ① 協会ホームページによる会員紹介及び会員開設 HP へのリンク
- ② 各種コンベンション開催情報の提供
- ③ 画像データ等の貸出
- ④ 旅行会社やマスコミへのPR活動支援

【会員の状況】

平成30年3月31日現在

区分	29年度
新会員	16件(法人13、個人3)
退会員	11件(法人4、個人7)
会員数	447会員(法人342、個人105)

◆八戸観光コンベンション協会 事務局所管団体等

1. 八戸三社大祭運営委員会（会長 塚原 隆市）
2. 八戸地方えんぶり保存振興会（会長 塚原 隆市）
3. はちのへ山車振興会（会長 小笠原 修）
4. 八戸三社大祭華屋台運営委員会（会長 工藤 悠平）
5. 史跡根城まつり運営委員会（会長 塚原 隆市）
6. 根城史跡保存会（会長 上野 末蔵）
7. 『アートのみち はちのへ』を推進する会（会長 大黒 裕明）
8. 八戸花火大会大会委員会（会長 塚原 隆市）
9. 八戸広域観光推進協議会（会長 塚原 隆市）